



先月の山行

- ☆ 2月11日(日) 大雪になりました
- ☆ 25日(日) 取立山 山行報告参照

3月の予定

- ☆ 4日(日) 伊吹山
 - ★ 8日(木) 例会
 - ☆ 11日(日)
CL
 - ☆ 25日(日)
CL
- 冬季は積雪を考慮し決定します。

4月の予定

- ★ 12日(木) 総会
- ☆ 15日(日)
CL
- ☆ 29(日)
CL

遭難対策基金 1000円 年会費 6000円
会計までお願い致します。

山行申込み方法

・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください
山の予定は天候に左右されます。より hot な情報は

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

検索し再確認して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

[山行報告]

取立山(1307m) 周回

日時：2018年2月25日(日)



今日の山行は、〇〇氏の集合時間勘違いのアクシデントから始まった。でも全員予定通りに国道157号線沿いの駐車場に到着、そこは我々3台の車を含め10台以下、余裕で止められた。

先ず各自ワカン等を装着し出発。いきなり左手をショートカットして行くという。それもトレースなしの急登で、今日の登山の辛さを予感させられた。少し行くと目の前に建物らしきものが現われる。東山いこいの森キャンプ場だ。屋根雪は3mくらいありそうだ。今朝降った新雪10cmの中トレースを忠実にたどり、夏駐車場を過ぎ尾根に出る。曇ってはいるが、右手に法恩寺山から経ヶ岳の山並み、その先に赤兎山が見える。後ろに目をやれば越前甲から鷲走ヶ岳の稜線が雪をまとっている。

いよいよ取立山への最後の贅沢な尾根歩き、今日は雪庇がないがすごく風が舞っている。快晴ではないが別山、白山から四塚山の稜線が見える。風紋が美しく、頂上の標柱も雪の下に埋もれている。でも風がとても強く、長い時間頂上にいれる状態ではない。記念撮影して早々にそこから退散だ。時間が早いので今日は周回コースに行くことにする。頂上から下ると目の前に大雪原の広がりがあった。この景色が我々の独壇場のように自然の中に溶け込むような気がした。

雪のこんもり盛り上がったところがある。「取立山避難小屋」だという。全く小屋の形も無く、冬ならではの風景だ。この近くに皆でワカンを使い踏み固め、休憩場所を確保する。今日はシェフ OT 氏の「カレーうどん」。温まり、おいしくいただく。ごちそうさまでした。

再びトレッキング開始、こつぶり山から見る白山や雪を被った木々がまた美しく、まさにインスタ映えする。護摩堂山が見えたときここから降りるルートを選ぶ。でもここからの急降下が大変だった。すぐそこに国道 157 号線が見えるのだが、最適な降り口が分かりにくい。谷筋で雪の下に沢水が流れているようで一歩間違うと危ない目に遭いそうだ。OH 氏が先に行きルートを確認してくれる。何とか降りることができたが、最後のガードレールをまたぐのにも苦勞する。年齢をとると大変であるのを実感する。まさに「老山」グループである。国道を 15 分ほど歩いて駐車場到着。今日もいい山歩きができた。感謝、感謝。



個人山行報告

取立山 (1302.7m)

日時 ; 2018 年 2 月 2 日 (金)

個人山行です。

今日の天気予報は久しぶりの晴れマーク。3 年連続の 2 月取立山登山に挑戦です。国道 157 号線沿いの駐車場には平日にも関わらず、10 台以上の車が止まっています。

カンジキを着け、今日は登山口、午前 11 時と遅い出発です。既にトレースが出来ていてそれをたどっていけば道に迷うことはありません。

15 分ほどで東山いこいの森に到着、屋根に積もった雪が 1m ほどもあります。身繕いを整え直し、再びトレース泥棒の始まりです。

シーンとした静寂の中、たまに杉林の上からの落雪がドーンと響きます。もし歩行中に落雪があると悲劇、

恐る恐る進みます。

トレースは林道を外れ、ショートカットで作られた斜面を登ります。近道ですが、直登のため、息がつかなく、汗も半端ではありません。

道中降りてくる人何人かに会います。「頂上まで行ってきた？」と聞くと、「途中で断念した」という人が多かった。折角のお天気なのにもったいない。

1 時間ほど行くとトレースが分岐しています。夏駐車場のところでしょうか。若い男の人が二人、休んでいます。今から登るのでしょうか、下るのでしょうか。他人のことは考えず、歩くことに集中します。

しばらく行くと、尾根に出ました。右方に雪を被った双耳峰の経ヶ岳、後方に越前甲、加賀大日山が青空に映えて光っています。この景色を見れば疲れが吹っ飛びます。

ここからの尾根歩きが長かった。長いトレースが稜線に沿って続いています。「泥棒」にとってこのトレースはありがたいが、この道が延々とエンドレスに続いていくようで心が折れそうです。

最後の力を振り絞って白山を見に頂上へ向かいました。いつもある右側の雪庇はありません。頂上には誰



取立山頂上からみた白山

もいなく、我々二人きりの貸切り場です。ここから先、こつぶり山へのトレースもなく、目の前に真白な白山がドーンと見えます。遮るものがない景色ですが、風が半端ではありません。お腹が空いていますが、この寒さには勝てません。写真を撮って早々に退却です。30 分ほど降りて風がない景色の良いところで昼食をいただきました。カップ麺が温かくおいしかった。下りはカンジキが歩きづらく、ツボ足歩きにしました。国道沿いの駐車場に着いたとき、車は我々の車を含めてたった 3 台でした。

今日もピークハントできて良かったです。



双耳峰の経ヶ岳とシュカブラ



正確に先行者の足跡をたどり何とか林道出合に到着。林道には何故か数人の足跡があり、途中でそれは枝分かかれしている。我々は林道を進むことにした。するとパッと展望が開け、左手に越前市、正面に鯖江市が現われた。樹木には氷が凍て付き、青空に映えて何とも美しい景色だ。今日は来て良かったとつくづく思う。突然携帯が鳴る。会長からだった。「天気がいいので山に行こう」とのお誘い、登山中なので丁重にお断りした。会長によると T 氏ら 3 人も日野山に来ていると

のこと。頂上で会うことを楽しみし、先を進む。比丘尼ころばしには通らず頂上の鳥居に到着、でも鳥居は見えない。雪が盛り上がっているところが鳥居だろうか。頂上へ行くと棒スケールは 288 cm を指し、思ったより少ない。でも 5 日前には恐らく 350 cm はあったに違いない。頂上から白山は見えなく残念だ。

小屋入口には階段が作られ、入るといきなり鳥目になり、数人の人がぼんやりしか見えない。ようやく目が慣れてくると 3 人の男性が練炭火鉢の周りで談笑している。荒谷コースから登ってきた日野山の常連さんだろう。リュックを降ろすと背中から汗が蒸気となって出ているのが分かり、すぐに着替えた。K 氏が「ビデオが動かない」という。寒さでバッテリーの調子がおかしいのか、しばらく小屋で暖めるとビデオが回復し、K 氏は早々に小屋から出て撮影を再開に行く。

少し待ったが T 氏達は現われないので、途中で会うのを楽しみに歩き出す。下山も直登の冬道を選ぶ。上りの辛さとは裏腹に下りは楽ちんだ。でもワカンが意外に沈み、苦勞する。室堂との分岐からは古道を選択する。登山口まで T 氏達とは会わなかったから、きっと室堂から正規の道を行ったのだろう。駐車場には 10 台くらいの車があり、T 氏の車もあった。大雪の後の久しぶりの山行は気持ち良いい運動になり、充実感が残った。

個人山行報告

日野山中平吹コース往復

日時 ; 2018 年 2 月 18 日 (日)

前日の天気は風が強く、とても山には登れる状況ではなかった。5 日前に「越前市 130 cm 積雪」という報道で、K 氏から「日野山の頂上の鳥居はどうなっているか気になる」との連絡があり、同行することになる。越前市に入ると思ったほど積雪は少なく、屋根の雪は 50 cm ほどだ。中平吹公民館の駐車場はきれいに除雪され、登山者の車が 1 台止まっている。日野神社を過ぎ、登山口の動物柵のところでワカンを装着する。先行者のスノーシューの跡を踏みしめ進むと、古道と新道の分岐、新道に行くことにする。焼餅石、弁慶の三枚岩は雪をまとい、案内板だけが見えている。さらに進み、もう少しで室堂というところでトレースが左方向に直登している。迷った挙句、直登の冬道に行くことにする。結構難儀な上りは、汗が滲み出、ワカンも時折沈み込む。



日野山の雪の中の避難小屋

お知らせ

- 3/29(木) 勤労者山岳連盟福井県連盟総会
19:30から21:00 湊公民館
県理事(宮本, 荒川), 伊部(監査)
- 5/19(土) 労者山岳連盟福井県連盟創立50年記念
安全登山の講座(会員以外を含)
終了後から夕方 記念パーティ
- 5/20(日) 記念荒島岳登山

大雪により会報誌郵送の遅れをお許し下さい。

「編集後記」

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、登山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp> に送信ください。